

広島大学短期交換留学プログラム 派遣留学報告書

	記入日	2019年07月22日
派遣プログラム	■HUSA □USAC □UMAP	
留学先大学	ハンブルク大学 (国名：ドイツ)	
所属学部・学科等名	アジア・アフリカ研究所 日本学科	
在籍身分	交換留学生	
留学期間	2018年10月01日～	2019年09月30日

1. 留学するまで

留学への志望動機・派遣先大学を希望した理由	ドイツ語の習得、社会学を学ぶこと、多文化社会を知るため
留学準備を始めた時期 (応募する何か月前ですか?)	1年生の冬
事前準備について (どのような準備をしたか、しておけばよかったか)	言語(独検2級)、広島大学での社会学や文人類学の専門授業の受講、卒論のための日本語での資料集め

2. 渡航について

ビザについて	ビザの種類：学生ビザ
	ビザ申請先：ハンブルクウェルカムセンター
	提出書類：申し込み用紙、大学の受け入れ証明書、口座証明、パスポート、寮の受け入れ証明書
	手続きに要した日数：1日
その他必要な事前手続き	特になし
出国年月日	2018年09月27日
経路(往路)	ヘルシンキ
現地での出迎え	□有(大学関係者・その他) ■無
到着後オリエンテーションの有無・期間・内容	■有(期間：1日内容：日本語でのビザや授業の受け方の説明) □無
帰国年月日	2019年09月26日
経路(復路)	ヘルシンキ

3. 留学費用について

支出額	総額	1,381,500	円	
	内訳	渡航費（往復）	150,000	円
		ビザ申請手数料	7,000	円
		予防接種費用	0	円
		保険料	27,000	円
		教材費（授業料以外の学費）	100,000	円
		宿舍費（住居費）	525,000	円
		光熱費	0	円
		食費	300,000	円
		通信費（インターネット・携帯）	22,500	円
		交通費（宿舍－大学間）	0	円
		交際費	250,000	円
		その他（ 費）		円

4. 授業・修学について

授業の概要について （カリキュラム、プログラム、履修した科目、時間数、履修形態等）	ドイツの語学コース（B1、B2）38ECTS、英語（B2）2ECTS 日本語学科のセミナー（翻訳、ディスカッション、社会政治学）21ECTS、6000語の英語の学期末論文、7000語のドイツ語の学期末論文執筆を含む 合計61ECTS
単位互換希望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
授業・勉強についての アドバイス （留学前の履修、留学中、単位取得等）	たくさん単位を取りすぎない。学期末論文を二つ書くのは大変なので、書いても一つにした方がいい。単位互換で1.5倍で単位換算されますが、実際にそれだけの労力があると考えた方がいいです。
日本と異なる授業形態 などにおける困難や挑戦 （ティーチングスタイル・先生と学生の関係性など）	学期末論文を20ページ以上書かないといけなくて大変。言語コース、ゼミの授業内容は日本とあまり変わらないと思う。週に一つのゼミあたり論文を2本くらい読まないといけなくて少し大変。（2つのゼミと1つの集中講義を受講）

5. 生活等について

（1）留学先の住居について

住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> その他（ ）		
住居の広さ	約 15㎡	同居人の有無	<input type="checkbox"/> 有（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他（寮の下に学生運営のBar、洗濯室では不要になった服や本がタダで手に入ります。）		
住居費	1ヶ月当たり 350	€(現地通貨)	約43,750円
留学先での住居全般に関するアドバイス	ハンブルクは寮費が高いです。個室で、台所とトイレ、シャワールームは4人で共用です。寮によって状況はかなり違います。		

(2) 医療について	
保険の加入先	■本学指定の保険 ■留学先大学指定の保険 □その他 ()
保険の補償内容	補償額 死亡1千万円、入院1日 10万円 その他 (ドイツの公的保険に加入しているため産科・歯科系もある程度カバーしている)
留学前後での予防接種の必要の有無	□有 (種類: 回数: 医療機関名:) ■無
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	ほぼ同じ、体調を崩すことが多く広島大学の保険の通訳+予約サービスがとても役に立ちました。ドイツの保険にも入っていたので、予防接種等はすべて無料でした。
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	水が硬水なので、それが体質に合わない場合は少し高くても軟水のミネラルウォーターを買う。やりたいことを絞ってあまりたくさんのをやりすぎない。
(3) 危険を感じた地域、状況、安全管理において注意したこと	
夜の中央駅、レーパーバーン、むやみに人の多いところで財布などを出さない等、基本的なことを守れば特に心配ないと思います。日本よりは治安は悪いです。	
(4) 食生活についてのアドバイス	
無理をして現地の食べ物だけを食べてやらないこと	
(5) 気候・服装についてのアドバイス	
冬は日光が少ないので、ビタミン等を摂取することを心がける。	
(6) 学内外の施設・設備環境について (インターネット環境含む)	
良い。寮のインターネット開通が複雑。留学前にeduroamを登録しておくが良い	
(7) 現地学生や地域との交流について (どのような、機会・きっかけがありましたか?)	
日本語学科の学生とのタンデム、アルバイト先、日本とドイツの交流の団体	
(8) 習慣やマナーの違いによる対人関係等、注意すべきこと	
暗くなってからは危ないので基本的に出歩かないようにする。ブランド品を身につけたり、ミニスカートなど華美すぎる格好をすると目立つので、できるだけ現地の人のような服装を心がける。	
(9) 日本から持っていくべきもの、持っていきべきでないもの	
持っていくもの：薬、日本語のドイツ語教材 (熟語帳など)、携帯 (フリーシムにする)、保険留学等の必要書類、最低限の服 (一年分持って行きました)、下着、水着 (こっちはものはパッドがなかったりする)、電子辞書、筆記用具、日本の調味料 (買えますが特殊なものはないです)、現地の人へのお土産、キャッシング可能なクレジットカード 持っていきべきでないもの：高価で必要のないもの、必要以上の服、現地で必要でないカード類	
(10) その他生活等に関して参考となる情報・アドバイス	
女性の方は、留学等のストレスで性周期が乱れることもあると思うので、留学前2ヶ月くらいの基礎体温をつけておく現地でも病院に行った時良いです。	

6. 帰国後の進路について

卒業予定年月	2020年03月 (当初の卒業予定年月 2020年03月)
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他(具体的に)
現在の状況および今後の予定・進路等	ミュンヘン大学 Japan Zentrum か名古屋大学社会学講座に10月から進学予定。 (DAAD 奨学金次第です。)
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	留学前に単位を揃えておく、3年の夏に1週間などの長期インターンをしておく、出来るだけ専門知識を身につけるように授業設計をする、卒論担当の先生などと直接進路に関して話しておく、留学した先輩に話を聞く

7. 留学準備、留学中に役立つ書籍、ウェブサイト等

書籍、サイト名	詳細(出版社、URL等)	コメント
地球の歩き方	ドイツ版	路線図等必要な情報が大抵乗ってるのであると安心
DW	ドイツ学習者のためのラジオ	毎日更新され、教養も養える
Amazon ドイツ		アニメがドイツ語で見れる

8. 後輩へのメッセージ

ドイツ留学は英語での留学に比べて求められる語学レベルが低く、ドイツ語学習者で留学希望者もあまり学内に多くないため留学しやすいというメリットがありますが、高いレベルの学習環境があり良いともいえます。しかし、英語のレベルを上げようと思うのであれば、ドイツ語が上達するにつれて英語文法が崩れる傾向にあるため、あまりお勧めはできません。ハンブルクは日本人の交換留学生が多く日本語を学ぶ学生も多いため、生活上困ることはあまりありませんが、それだけ日本語に甘える生活になると思います。その反面、日本語学科でゼミや学会などより学術的な研究に参加することができたので、日本関係の専門知識を身に付けたいのであればとてもお勧めです。

9. 自由記述 (1,200 字程度)

①留学を終えての所感

ハンブルクは私にとって初めての都市生活で、新しいことがたくさんあってとても楽しかったです。日本語学科が充実している環境はメリットもデメリットもあると思いますが、わたしにとっては挑戦できる可能性が言語によって遮断されにくいという点において大きいメリットを感じました。

②留学期間中、最も印象に残った体験・出来事

やはりハウスアルバイト (学期末論文) を2本書き終えたということだと思います。提出日前一週間くらいは朝10時から夜3時くらいまでずっと書いてました。たくさんのドイツ人学生に付き合ってもらえて書き終わることができました。大変でしたが、語学を学ぶという上においても、学術的な技術や態度を学ぶことにおいても大変良い機会であったと感じます。また、10月から12月までハンブルクの美術館や劇場が大体タダで利用できるカード (フライカルテ) が「新入生」ということで発行されて、たくさんの文化的体験ができ、さらに深くハンブルクを知ることができました。フライカルテが失効後もハンブルクの学生証で、例えばオペラが一律15ユーロでみられるなど (普通は130ユーロくらいする席を15ユーロで見られます) かなり学生としての特典が多く、オペラに関しては10回以上行き様々な知識を身につけることができました。ハンブルクはヨーロッパ第二の港町であるということと、天気があまりよくない土地柄からか、博物館がとてたくさんあります。例えばハンブルク工芸博物館は50万点以上の所蔵数 (東京国立博物館は約12万点) の大きな博物館ですし、ドイツで一番大きな美術館もハンブルクにあります。「ハンブルクでは小さい世界旅行ができる」と言われているくらいで、ハンブルクだけでさまざまな世界のものが見られて、博物館好きの人であればとても良い町ではないかと考えます。

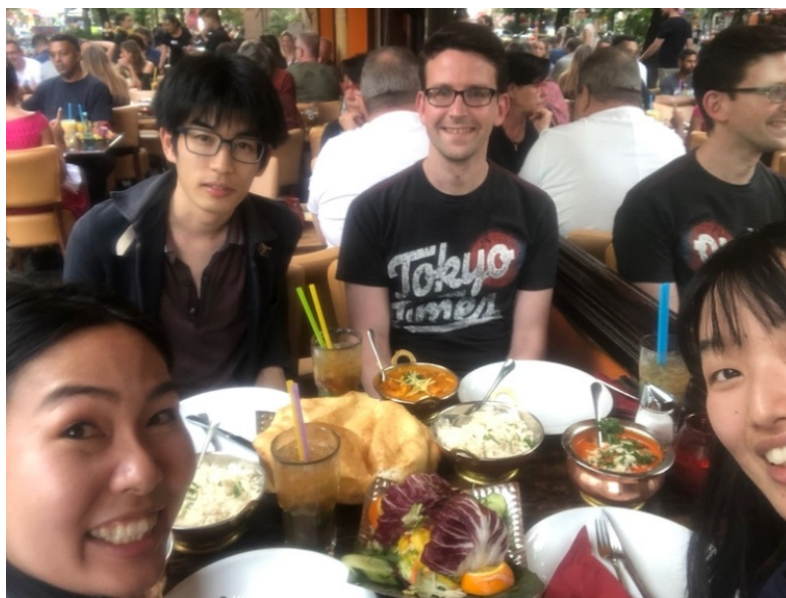
③留学の成果、留学前と比較して成長した点

ドイツ語は初めはA2と独検2級取得した状態でしたが、あまり話せる方ではなく友人と話するときも意味を聞きつつ、ゆっくり話してもらうようにしていましたが、最終的には普通のスピードでニュースを聞いたり、会話をするできるようになりました。(かなり文法的間違いが多いことは変わらないのですが) 今は英語とドイツ語を素早くスイッチすることが課題です。(通常、なんとかかまともな英語が話せるようになるまで2時間くらいは必要です)

④今回の留学での経験や成果を今後どのように活かしたいか (将来のキャリアパスも含めて)

ハンブルク大学で授業を取っていた先生が推薦状を書いてくださることになり、帰国早々10月1日提出でDAAD (ドイツ学術交流会) の修士課程用の奨学金に応募することになりました。もし通った場合は、ミュンヘン大学の日本学科に正規学生として入学する予定です。通らなかった場合は、名古屋大学の社会学講座に進学したいと思います。ドイツでの卒論研究や社会政治学的な研究が功を奏して、どちらのビジョンになったとしても充実した修士の研究ができるような環境づくりができました。留学を通して大きく将来のビジョンを変えられるという、のちのHUSA留学生にとって良い例になれたのかなと考えます。

- ベルリン観光にて（広大 Dr.、情報科学者、フンボルト大 Dr. という分野も違う謎メンバー）



- 学期末論文の目次（この論文は日本の町内制度に関して、一つ他のものは三次市甲奴町のフィールドワーク）

Inhaltverzeichnis

1. Einleitung.....	2
2. Funktion des Verwaltungssystems in dieser Region	3
I. In welcher Weise unterscheidet sich die Bezirksverwaltung von der Regionalverwaltung?.....	3
II. Was sind köku, chō und kumi? Welche Funktionen haben diese?	4
III. Was wird in der Bezirksverwaltung „chōnaikai“ auf welche Art und Weise unternommen?	8
3. Historischer Hintergrund der Kawasakō-chō Chōnaikai	9
4. Wie das System der Chōnaikai vermittelt wird.....	11
I. Vergleich zwischen der chōnaikai und dem Schulsystems anhand der Mechanismen „i“in“ und „tōban“	12
II. Topographische Gegebenheiten.....	14
1) Ebene in der Nähe der Bucht.....	14
2) Praktisch gelegener Standpunkt	15
3) Gefahrenzone bei Hochwasser, Tsunami und „Verflüssigung des Erdreichs“	16
4) Analyse.....	17
5. Fazit.....	19

注1) 報告書およびその内容は、留学希望者への情報提供のため、HUSA ホームページおよび広島大学ホームページへの掲載、事務室での閲覧や大学の留学情報案内の作成のために利用させていただきます（氏名及び学生番号については、非公開とします）。ただし、公開にあたり不適切と判断された内容については、国際交流グループにて削除等させていただきますので予めご了承ください。